



能代健康

発行日：平成28年9月1日 発行人：能代高校東京同窓会 責任者：石井喬 編集：会報誌委員会 題字：山田晃一(第42期) 印刷：株式会社毎栄



伝統行事である十里強歩のスタート時、いい表情を見せる能高生男子(上/2012年)と女子(下/2015年)。 写真協力/能代高校



平成28年度 能代高校東京同窓会総会のご案内

【日時】平成28年10月1日(土)

□受付 12:00～

□総会 12:20～

□講演会 13:00～

演奏会 お話と演奏 納谷嘉彦さん(第43期)

ピアニスト/作編曲家

□懇親会 13:30～16:00

【会場】アルカディア市ヶ谷 3階 富士の間

年会費は昨年から2,000円に
値下げされました

【年会費】2,000円

【懇親会費】男性 7,000円 女性 6,000円

*お振込、または当日受付にて受領します。

*割引制度や特例があります。

【出欠】出欠にかかわらず必ず、同封のはがき

を9月22日(木)までに投函ください。

総会・懇親会の詳細は本誌6ページに掲載しています。

東京同窓会ホームページ <http://shoryokenji.web.fc2.com/>

甦る思い出

東京同窓会会長 第46期 石井 喬

任期満了に伴い退任された菅原前会長の後任で昨年の総会に於きまして、新会長に就任しました。今後とも宜しくお願い致します。



本校90周年記念時にも寄稿させて頂きましたが、私の46期は樽子山と高埒の両校舎を知る数少ない期のメンバーでもあります。両校舎とも1年半ずつ学んだ期でもあります。当時、歴史と伝統に包まれた旧校舎は建物こそ老朽していましたが、威厳や重厚感は生徒たちを神聖な気持ちにさせる不思議な佇まいを醸していました。一方の新校舎は広大な敷地の中にポツンと校舎がそびえ立っているという、これまた不思議な光景でした。正確ではないかもしれませんが、当時、全国でも2番目に広い敷地面積だと聞いたことを覚えております。その高埒の校舎も里帰りの際に立ち寄ってみたりするのですが、周辺地域はなんと様変わりした事かと驚かされたものです。

考えてみれば、卒業して約40年の年月が流れているわけですから当然と言えば当然の事なのかもしれません。同期の仲間が孫が生まれたとか娘が結婚したとか、そんな話を耳にすると私も随分歳とったなあと感じますが、1期先輩が本校の校長先生をされていたり、1期後輩が本校の教頭先生になられたりと、当時とは立場が違えど、まだまだ母校とは繋がっているんだなあ実感しました。

私と同様に、皆様も多くの仲間や先輩、後輩そして恩師の先生など大勢の知人と対面再会する事で、それぞれに甦る楽しい思い出に出会えることと思います。

会長に就任して、東京同窓会を末永く継続させなければいけないという気持ちを、より強く感じました。まずは、初代会長から菅原前会長までが培ってこられた東京同窓会の灯を絶やすことなく、より強くより大きくしていきたいと考えております。それには、是非皆様のご協力とご理解を

頂けます様、宜しくお願い申し上げます。

10月1日は多くの皆様が楽しむことができます様、幹事一同心より、多くの参加を楽しみに致しております。

会長退任のご挨拶

東京同窓会顧問 第39期 菅原 渉

昨年の10月定例総会に於きまして、46期生の石井喬さんに会長職をスムーズに引き継ぐことができましたことをご報告致します。会長在任中は多くの会員の皆様から心温まるご指導とご協力を賜り、4年間を無事にそして楽しく勤めさせて頂けましたことを心から御礼申し上げます。



東京同窓会では会のマンネリ化に繋がる長期政権を避けるために、会長任期は2期4年までと会則を変更しております。ともすれば高齢化しがちな同窓会ですが、より幅広い年代の同窓生が楽しく一同に集える場でありたいと、若い幹事さんにも積極的に執行部に参加してもらっております。

先日の幹事会でも、ベテラン幹事さんと若手幹事さんが諸々の議題について一生懸命議論している姿を見ていて大変頼もしく感じた次第です。

東京同窓会は昨年年会費を減額したり、懇親会スタイルを変更したりと大きな改革がありました。年会費減額の効果からか納入者数は前年比約15%増加しましたが当初の期待値には届かず、もう少しアナウンスの方法を工夫する必要があります。また懇親会をバイキング形式にしたところ、人数分の料理が出ているにもかかわらず「今年は料理が少ない」と不満の声が多く聞かれました。各人の料理の盛り付け方に問題があるのでしょうか、今更テーブルマナーの講習をする訳にもいかず(笑)、このあたりも「ひと工夫が必要だね」と話し合われました。

そんな会議の中から今後に向けての色々なアイデアも出されており、今後の東京同窓会は益々楽しみだなと強く感じております。幸いにして、我

が東京同窓会には若くて優秀な人材が沢山揃っております。これからは新会長を中心に若い人達が新鮮な感覚で東京同窓会をより一層活発で楽しい会に盛り上げていって欲しいと心から願っております。

鎌田宏校長先生のこと

能代高等学校校長 第45期 菊池 一二三

東京同窓会の皆さんからいつも母校に対して深い愛情と心強い応援をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。



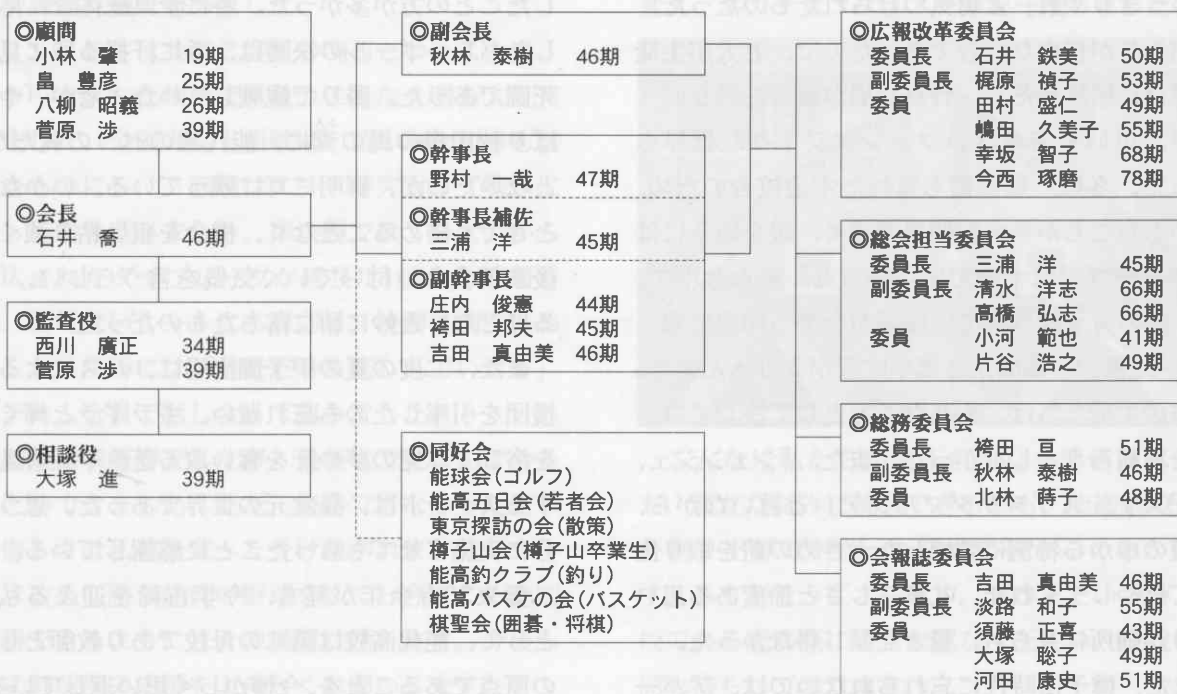
さて、昨年の会報で私は移転当時の思い出を述べましたが、90周年に当たって当時の資料を改めて調べていたところ、時の校長であった鎌田宏先生の言葉に行き当たったのでした。先生は50周年記念誌に、第一期を能中時代、第二期は新制高校時代、そして第三期を高城移転以後として、「これからの第三期には大きな飛躍がなければならない。その一つは学業の成果であり、その二はスポーツの成績であり、その

三は師弟融和の風を作ることだ」と思い、ひそかに心に期した」と述べていたのです。鎌田校長は移転の翌年には学校を離れましたが、先生の意思は、残った生徒と教職員によって立派に受け継がれ、学校づくりの礎となって今日に至っていると私は感じたのでした。

学業の成果においては、移転を機に進学実績は格段に向上して、進学校としての確固たる地位を築きました。スポーツの成績では、軟式野球部が全国大会出場16回、全国優勝を2回果たし、全国の名門校の一つに数えられております。硬式野球部もその後3度の甲子園出場を果たしており、平成4年には、硬式・軟式両野球部が全国大会出場という快挙も成し遂げました。文化部の活動においても、弁論部や無線部は東北トップの実力を有し、全国大会の常連となっております。そしてこのような進学実績の向上や部活動の充実・活性化は、師弟が共に手を携えて取り組んだからこそその成果であり、その意味においても鎌田校長が心に期した「師弟融和の風」も立派に成し遂げられていると思っています。

鎌田校長先生は新制高校発足の頃にも本校に在職しており、校歌の歌詞の原案作りに苦心されたようで、節目節目で本校のために尽力されていた先生に、私は熱い思いを感じたのでした。

平成28年度 能代高校東京同窓会 幹事会 委員会 組織図



恩 師 に 聞 く

「尽きせぬ」思いのままに

高橋 一成 先生

1973(昭和48)年4月から79年3月まで能代高校に在職された国語科の高橋一成先生にご寄稿いただきました。先生は現在、秋田市にお住まいです。



●樽子山時代の残映、忘れられぬできごと

私が能代高校に赴任したのは、教師になり立ての25歳のときであった。6年間お世話になった。

校舎がまだ樽子山にあった頃で、苔むした正門までの景色には、風格と威厳があつて圧倒された。

前庭には、「常磐の緑」の風情ある植樹がなされていて、落ち着いた雰囲気であった。更に驚いたことに、木造の校舎の窓には、未だに「能中」と記されたガラスが嵌め込まれていた。卒業生諸氏の青春の残映が揺曳しているようで、身の引き締まる思いであったのを昨日のように覚えている。

重厚で男気のある気風と進取の気性は、学舎全体に溢れていて、適度な緊張感を持ちながら過ごす学校生活は、実に心地よかった。先輩の諸先生たちからは、「萎縮するな。間違ってもいいから、思いっきりやれ」と勇気づけられたものだった。

出入りが自由な校舎であったので、老犬が生徒昇降口に居座ったり、野鳥や鳩が廊下を飛び回ったり、思いも寄らないファンタジックな世界もあった。冬は、幾星霜も重ねた木造校舎のため、窓やあちこちからの隙間風で寒く、暖を取るには薪ストーブでは十分ではなかった。そんな中で、2年生の男子クラスでの授業が今でも印象に残っている。校舎の隙間から風や吹雪が入り込んでも、後方の生徒たちは、失礼なこととして決してコートを羽織ろうとしなかった。また、「シェンシェ、心配スナ。スグヌグダマルンテ」と言いながら、教壇の中から特別に乾燥した大きめの薪を取り出して燃やしてくれた。礼儀正しさと節度ある思い遣りが随所に見られ、驚きを禁じ得なかった。

また、樽子山時代に忘れられないのは、アパー

トが火事に遭ったことである。秋の遠足の帰り道、けたたましい音を立てて消防車が走っていく。慌てて方向を確認するとまさに我がアパートではないか。全焼である。茫然自失で立ち竦んでいたときに、背広を翻して駆け付けてくれたのが、その後一生の付き合いとなる金谷晴隆先生だった。

●高埕時代の伝説、応援団で貴重な経験

そしてまもなく校舎は、高埕の地に移転する。当時、周囲には何もない田圃のご真ん中に建てられ、東能代駅からも見えた。強風が吹くと辺り一面に砂埃が舞い上がり、プールは使用不可。学年で実施した記念植樹も駄目になってしまった。

冬は地吹雪が凄まじく、幻の校舎を通り過す生徒が出現するなど信じ難い伝説まで生まれた。

この高埕草創の時期に担当したのが、野村一哉幹事長を始めとする理系50人の猛者ども、強烈な個性を持った野郎組3Gであった。この高埕の地で、自分達が新しい伝統を構築するのだという矜持と意欲に溢れ、迫力があり実に頼もしかった。

更に毎日曜日、数人が必ず下宿先に訪れては強引に野球に誘い出し、二小のグラウンドで、日が暮れるまでプレーしたのも懐かしい思い出である。彼らにとって受験のストレス解消になったろうが、次の月曜日、私は全身の筋肉痛と肩痛で板書ができず、大変であった。

その後事情があつて、応援団の顧問を引き受けることになった。苦労はあつたが、貴重な体験をしたことの方が多かった。特に全県総体で、応援したバレーボールの決勝は、手に汗握る稀に見る死闘であった。隣りで観戦していた古老が「やっぱり秋田衆の馬の糞に、能代衆のベコの糞だな」と呟いたのが、鮮明に耳に残っている。いかなるときでも諦めることなく、機会を狙い粘り強く最後まで食らい付いていく気概を言うらしい。「なるほどな」と妙に腑に落ちたものだった。

また、二度の夏の甲子園出場に、バスによる応援団を引率したのも忘れ難い。ギラギラと輝く陽を浴びて球児の夢や汗を奪い取る芝生や狂喜乱舞するスタンドは、異次元の世界であった。思う存分に実施させてもらったことに感謝している。

爾来30有余年が経ち、今年古稀を迎える私にとって、能代高校は第二の母校であり教師としての原点であることを、今懐かしく思い返している。

能 高 生 だ よ り

軟式野球部、全国準優勝！

軟式野球部 主将 安井 晴貴

昨年の第60回全国高等学校軟式野球大会では、能代の攻撃野球を存分に発揮して、準優勝という結果を残すことができました。秋田県大会では、エースの爪が割れるというアクシデントもありましたが、チーム一丸となって、エースを支えながら戦いました。

北東北大会では1回戦から延長戦になり緊迫した試合を勝ち抜き、決勝戦では、1点



を先制され苦しい状況でしたが、4番の一振りで逆転し、明石への切符をつかむことができました。それから私達は全国優勝という目標を現実のものにするため、それまで以上に練習に打ちこみ、個々のレベルアップや大会で見つかったチームの課題克服に努めました。

2、3年生は共に2度目の明石ということで、リラックスした状態で気負うことなく明石入りできました。全国大会1回戦は、苦しみながらも接戦をものにし、2回戦はエースが完封して勢いに乗って勝ち進みました。準決勝では、今大会から導入されたタイブレークが延長13回から適用され、慣れないルールにも対応し、決勝に駒を進めました。決勝には「最後だから楽しんでいこう」とチーム全員で話し合っ

て臨みました。結果は準優勝でしたが、最後まで楽しんでやることができました。ただ、優勝できなかったという悔しさは私達後輩へと受け継がれました。今年も、攻めて勝つ能代の野球をして、今度こそ全国優勝できるように日々の練習に励みます。今後も軟式野球部の応援をよろしくお願いします。

能高生のことを好きになる能高祭

第57回能高祭実行委員長 加藤 みず希

今年の能高祭は、「華焰～刻め、青春 灰になるまでhighになれ」というテーマの下、活動しています。そして私は、実行委員長として個人的に、「能高生のことを好きになる能高祭」というものを掲げています。能高祭が始まる前と後で、少しでも各々の好きな人が増えればいいなと考えています。またそれに見合う能高祭を創り上げてきたつもりです。能高祭は、面識のない人の良いところを見つける絶好のチャンスです。仲のいい人とずっと一緒にいる能高祭もちろん楽しいと思いますが、バンドやのど自慢、各クラスのHRデコなど、他クラスや他学年の人のいいところをたくさん見つけてほしいと思い、様々なものを企画しました。

また、今年は昨年度の90周年を終え、100周年に向けての新たな一年です。その一年に相応しく、たくさんの新たな試みに挑戦しました。まず、目玉企画として能高祭実行委員の長年の夢だった露店の開催を叶えました。まだ小規模ですが、この先どんどん大きくなっていけばいいなと期待しています。また、批判の多かった減点法を加点法に変え、ネガティブなイメージを一蹴しました。



こんなに私たちが何不自由なく準備できるのも、新たな試みに挑戦できるのも、能高祭の土台を創り上げて下さった先輩の皆さんのおかげです。ありがとうございます。ぜひまたいつか、母校である能高祭に足をお運びください。在校生一同お待ちしております。

平成28年度 能代高校東京同窓会総会・懇親会のご案内

【日時】平成28年10月1日(土)

受付 12:00～
総会 12:20～
講演会/演奏会 13:00～
懇親会 13:30～16:00

【年会費】2,000円

*年会費は昨年から2,000円に値下げ

*世帯制割引:夫婦そろって同窓生の場合は一世帯2,000円

*2016年新卒者特例:1,000円

【懇親会費】男性7,000円 女性6,000円

*割引制度や特例があります(下段参照)。

*3階・会場前の受付で会費・懇親会費をお預かりします。

【出欠】同封のはがきは9月22日(木)までに投函ください。

東京同窓会ホームページでも受け付けます。

<http://shoryokenji.web.fc2.com/>

【会場】アルカディア市ヶ谷 3階 富士の間

JR/地下鉄(有楽町線、南北線、都営新宿線)

市ヶ谷駅より徒歩3分

千代田区九段北4-2-25 電話03-3261-9921

<http://www.arcadia-jp.org/>



講演会
演奏会

「サムライ Jazz を語る」

お話と演奏: 納谷嘉彦さん(第43期)

ジャズを通して取り組んできた活動に関するお話とピアノ生演奏を披露していただきます。

《プロフィール》

なや よしひこ

ピアニスト/作編曲家。能代一中卒、能代高校卒業後、ネム音楽院(現ヤマハ音楽院)入学。

1978年、第1回日本ジャズグ

ランプリに於いて最優秀ソロイスト賞を受賞。「納谷嘉彦3」で名古屋を中心に活動を開始。その後バイオリニストの寺井尚子、日野皓正(トランペット)等のバンドに参加。2004年、井上陽介(ベース)他のアルバムに参加。09年、書き下ろし時代劇小説に全編オリジナル曲で挑んだ日本ジャズ界初のアルバム『侍 Bebop』をリリースし「サムライ JAZZ」という新しいジャンルを作る。05年4月より名古屋音楽大学音楽科特別講師として、教育現場で後進の指導にも力を注いでいる。現在は東京を拠点として精力的に活動中。 <http://www.naya-music.com>



◆出欠にかかわらず回答はがきを必ず投函してください!

同窓会案内に対して3年間連続して無回答の方は会報誌発送リストから外され、往復葉書による隔年案内または発送停止に切り替わります。個人情報保護の高まりからか、表札を掲げない人や郵便受けに名前を表示しない人が増え、移転により別の人が住んでいても郵便物等がそのまま配達され、会員の皆さんに届いていないケースが多くなってきたことからです。

*会報は3年の間に1回でも「総会に出席した人」

「会費の納入があった人」「回答はがきを返信した人(出欠問わず)」に発送しております。

*3年間に一度も回答のない方は案内が届いていないと見なされます。

◆住所変更の届けをお願いします!

住所やメールアドレスの変更があったときは、事務局までお知らせください。そのままですと会報誌や総会案内などが届かなくなります。住所確認のためにも回答はがきの投函をお願いします。FAX(03-6411-7945)でも、ホームページ(<http://shoryokenji.web.fc2.com/>)からでも送信できます。

※FAX番号は今年度から新しくなっています。

【懇親会費の割引・特例】以下のとおり差し引きます(今年度より一部見直しています)

- 1) 初参加割引 総会・懇親会に初参加の同窓生は1,000円引 ★1、2、3は重複可
- 2) 若者割引 第65期生以降の同窓生は 1,000円引
- 3) 先輩割引 第30期以前の同窓生は 1,000円引
- 4) 新卒者特例 今年2016年に卒業した同窓生は 無料(年会費の1,000円のみで参加できます)
- 5) 学生特例 同窓生で新卒以外の学生の方は 1,000円のみで参加できます(年齢不問)
- 6) 東京同窓会以外の能高同窓生、友人等は 懇親会費のみ(東京同窓会年会費は不要)
- 7) 家族の参加 同窓生の家族は 3,000円のお支払いで参加できます

★ちょっと健康が不安という方は家族の方と一緒に参加してください

★家族に同窓会の雰囲気を見せてあげたい方も遠慮なくご同伴ください

★小学生以下は無料

平成27年度総会・懇親会の出席者(同年度会費納入者)

【19期】小林肇(能代)【23期】矢口裕(二中)【24期】小山黎子(二中)、今村宏司(一中)【25期】佐々木胤麿(東雲)【26期】畠山信孝(瀧川)、板倉富弥(下岩川)【27期】大村真陸郎(浜口)、若松正雄(一中)【29期】宮腰興紀(一中)、宮腰瑞夫(一中)、石川正順(森岳)、塚本祝永(二中)、大越義蔵*(二中)【31期】馬場富男(二中)【32期】高谷誠(深浦)【34期】西川廣正(東雲)、長岡忠光(檜山)【35期】石山眞(二ツ井)、干場革治(八森)【37期】加賀咲男*(一中)【38期】豊嶋誠(檜山)、佐藤能雅(東雲)【39期】菅原渉(下岩川)、大塚進(二中)、直嶋博明(東雲)、金野峻明(一中)、諸沢隆一(一中)、住吉修平*(一中)【40期】小林哲(東能代)、智田農(富根)、敦賀照光*(一中)【41期】金子裕二(浜口)、小河範也(二中)、大久保英生(二中)【42期】平野秀俊*(二中)【43期】菊池忠夫(藤里)、福岡武(二ツ井)、高橋敦子(東能代、旧姓渡辺)、須藤正喜(八森)、納谷嘉彦*(一中)【44期】庄内俊憲(八森)【45期】袴田邦夫(二中)、三浦洋(森岳)、鎌田泰宏(二中)、真崎裕(二中)、河田昌俊*(一中)【46期】石井喬(二中)、平川尚(一中)、吉田真由美(一中、旧姓工藤)【47期】野村一哉(二中)、越中谷真喜(一中)【48期】佐藤美香子(二ツ井、旧姓中田)、小島覚*(二ツ井)、藤田幹也*(二中)【49期】片谷浩之(二中)、近藤敏仁(下岩川)、田村盛仁(二中)、本間邦弘(一中)【50期】石井鉄美(一中)、佐藤孝也(一中)、尾張政克(二中、能代から参加)【51期】袴田亘(二中)【52期】井瀧正彦(二中)【53期】梶原禎子(八竜)、吉田順(一中)【54期】佐藤篤規(二中、三重県津市から参加)【55期】淡路和子(一中)、浅野敦志(東能代)【56期】部村由美子(鷹巣、旧姓長岐)、高島雪絵(合川、旧姓三浦)【60期】安井正彦(二ツ井)【66期】高橋弘志(二ツ井)、清水洋志(八竜)、原田寿春*(二ツ井)【68期】幸坂智子*(能代南)【78期】今西拓磨(八竜)【82期】相原史遠(八竜)

●同窓生出席者数 77 名 ●東京同窓会以外の同窓生 1 名 ●同窓生家族 2 名

●*印は初参加者 11 名 ●出身中学校名は卒業当時の校名

平成27年度総会 欠席しますと回答いただいた方と会費納入の方

【8期】星信勝【19期】五十嵐嘉久彌、#大塚哲郎、#鈴木良夫【20期】#吉田裕、#金谷芳郎、塩谷隆二【21期】#八杉和夫、金井惇、齊藤正【22期】田中克芳、村井克自【23期】細田了平【24期】#木村信逸、金丸正、#豊田誠、木村喜作、#蓮沼旬、#山縣輝輔【25期】岡部忠、#民谷恒二、#畠豊彦、#那須秋男、#栗原俊一、#町田次男、#工藤尊久【26期】八柳昭義、#宮腰英彌、神馬清史、#佐々木高博、池内廣之、神山正子、仙台嘉仁治、佐々木章【27期】#斎藤秀夫、佐藤齊、#栗原優子、#山田邦夫、#檜森寛、#後藤信義、加賀麗子、石嶋喜直、#田中郁三【28期】#須田正巳、中村敦美【29期】佐藤美恵、下間弘道、#赤塚鉄男、#中田龍一、笹木廣澄、蓼沼正紀、大山隆治、#嶋田雄右、#清水武久、#越前谷孝臣、#山崎武、#富岡重雄、#鈴木元紀、三浦与志彦【30期】#渡邊傑、吉田広英、#熊谷幸夫、宮腰七郎、宮腰忠【31期】#小田幸雄、#大倉報三、檜森隆、三浦永夫、長岡満夫、加賀輔、佐藤昭彦、菊池宏道【32期】#森喬夫、#森田弘、#田中正敏、越前谷明則、吉岡良隆、上田公三、今立孚、千田修、笠原強、芦崎昭紀、村上満喜子、奈良勝夫、松橋厚、石川義彦【33期】戸松勇一、太田進、#清水靖子、斎藤功、船山稔、#金田英哉、#清野勝子、渡部洋【34期】杉沢忠信、畠山昇、#斎藤彰悟、大高幸作、棚橋東峰【35期】唐沢好文、恩田恒美、#加賀亮司、#金子永喜、佐藤俊民、#榎修、伊勢誠治、熊谷惇夫、#横田眞理子、#川添能夫、小山内与治兵衛、川村清【36期】#深井学、浅野友城、佐藤修一、#大山金士郎、藤田辰夫、細田静夫、#嶋田星子、#櫻庭均【37期】#若狭秀巳、#小野津世子、佐賀井明英、袴田大蔵、保坂孝雄、小松義明、小杉山久晴、#今野廣隆、袴田哲、平塚たづ子【38期】#戸松伸一、#酒田正克、岩谷憲一、大塚健三、畑沢鉄三、#新堀勝男、#福田満男、#荒川久敏、#袴田忠夫、田口宜明、#松谷康雄、市川正敏、工藤巧、松村ひとみ、#伊藤陽一【39期】#保坂孝範、能上典男、下坂節男、茂呂忠良、田村敏雄、#持田訓【40期】三浦和信、#熊澤朝子、清水英宏、石井さつ子、横田琢丸、#高橋博美、#北川雅夫【41期】#佐藤治、伊藤一美、加賀久毅、山谷和則、藤田久夫、瀬川公平、#成田忠幸【42期】工藤長彦、加藤正人、#佐藤行信、工藤俊一、山柄一庫、島村努、勝呂誠治【43期】#白木仁、#石塚信一、#幸坂和彦、金子美吉、工藤富雄、高松芳則、#五代儀彦秀【44期】神田弘二、#渡辺隆幸、#佐藤穰、宮城伸一郎【45期】#高松武史、#大塚雄蔵、港基樹、長江妥貴子、平野信任【46期】齊藤昭義、田上道子、#大塚晃、#秋林泰樹、#斎藤靖雄、神成嘉正【47期】市川勝、#大淵重人、#五十嵐和雄、佐野輝彦、和平忠幸、大坂吉行【48期】#北林蒔子、野村松信、#越後康一、小林一彦、安濃純、安田守、佐藤公樹【49期】今野泰則、田村弘文、金田亨、#大塚聡子、田村智昭、#松永京子、鎌田健二【50期】#名賀なみき【51期】萬寶通子、飛田恵、河田康史、平塚征悦、平塚佐智子【53期】若杉公子、#工藤勉、#堀内博司【54期】#佐藤周之、#遠藤いぶき、三浦佳奈子【55期】#嶋田久美子、#大山頭【56期】大野留理子、高橋善宏、渡辺直子【57期】#北野美穂子、渡邊直美、佐藤直人【58期】原田長政、須藤彰、柴田正紀【59期】#畠山真吾【60期】柴田真人、浅野希【61期】村上巧美【62期】滝こずえ、#大高忠勉【65期】田口真由美【66期】畠山幸【67期】#小野立、滝田祐作

●#印は会費納入の方 ●年会費世帯制の適用者2組は2名の名前を掲載しました。

※このページは敬称を略しました。★欠席でも回答いただけると助かります。今年はぜひ参加してください。

平成27年度 総会・懇親会の報告

2015年10月3日(土)、能代高校東京同窓会総会・懇親会がアルカディア市ヶ谷で開催されました。能代など首都圏以外からの参加も含め、19期から82期までの同窓生と来賓あわせて約100名が出席。金子裕二さん(第41期)の講演会の要旨に続き、参加者の感想などをあわせてご報告します。

講演会「還暦を過ぎて これからの夢」

講師：金子 裕二さん(第41期)



生ハムは2000年に輸入が解禁された

みなさんこんにちは。私は「グランビア」という生ハムのお店をやっていますが、今日は少しの時間生ハムのお話をしたいと思います。



写真1：グランビアの生ハム工房

これ(写真1)が仙北市田沢湖にあります「グランビア」の生ハム工房です。田沢湖スキー場の手前の水沢温泉郷にあります。

ここで私は生ハムをつくっています。

2000年に解禁された生ハムがありまして、主にスペイン、イタリア、南フランスでつくられている長期熟成した乾燥タイプの生ハムです。2000年まで日本の食品衛生法に合致しないので輸入禁止になっていました。近年の規制緩和で日本に輸入され始めて、まだ15年くらいしかたっていないです。

生ハムには2種類ある

生ハムには大きく分けて2つあります。輸入された長期熟成のものと、大手スーパーやコンビニでも売られている短期間でつくられる「ラックスハム」です。ラックスハムは大体3週間でハムになりますが、かたやこういうハム(写真2：原木といます。骨付きのままつくっています)

は、長期熟成されます。

1年、または2年3年4年とかけます。これらの生ハムの違いの一つはつくる期間の長さです。もう一つの違いは、長期熟成タイプのハムは、無添加でつくるものが多いということです。



写真2：生ハムの原木

無添加といっても塩気が必要なので塩は入れますが、一方のラックスハムは保存料とか発色剤、アミノ酸が添加されます。肉はタンパク質のかたまりで、酵素の働きでうま味部分・アミノ酸部分に変わるわけですが、これには時間がかかります。ラックスハムは味を付けたものですが、長期熟成のものは自然のうまさが出てくるまで待つわけです。私は、2年3年寝かせなければいけない効率の悪いほうのハムをつくっています。大手メーカーがつかない理由は割に合わないからです。これがうちの工房にある2年ものです(写真3)。手前にある白いものは1年ものです。白っぽく見えるのは白カビです。白カビは製造過程の中で発生します。2年ものになると、スモークしたわけではなく自然にこういう茶色に変化します。



写真3：熟成中の生ハム

暑い気候の中で熟成させる

生ハムづくりに体験参加して1年後に1本を自分のものにできるという「生ハム塾」をやっています。血抜き作業、この血抜きをしっかりとやらないと味わいが悪くなります。冬の間3～4週間塩漬けをします。うちの工房で年間1,500本つくるのに5～6トンの塩を使います。ミネラルがいっぱい入った瀬戸内海の粗塩を使います。そのあと塩抜きをやります。それから冬の間寒いところで乾燥させます。乾燥させることで腐敗菌が

周りにつかなくなるので、乾燥は大切です。乾燥させたものをさらに自然の条件で熟成する工程に入ります。基本的に生ハムは自然条件でつくりますが、日本の暑い気候も必要です。11～12月、1月が塩漬け、それから春先くらいまで3～4か月くらい乾燥させて、気温が上がる春から真夏の30度くらいの中で熟成・発酵させます。

生ハムづくりを始めた理由

40年くらい前にスペインに旅行したことがあり、その時に初めて生ハムを食べて「世の中にこんなうまいものがあるんだな」と思って、「よし、これを日本へ持って帰ろう」としたら税関で没収されてしまいました。これは日本でつくるしかないと考え、だいたい30年くらい前から見よう見まね、試行錯誤で作り始めて、やっと何とか出来上がったのが20年前くらいです。冬に仕込んで1年待つというつくり方なので、まだ20回くらいしかつくっていないですね。

スペインの隆盛は生ハムがもたらした!?

生ハムは、日本にはほとんどなかったんですね。2000年以降に輸入が解禁されたので、まだ15年くらいしかたっていないですね。スペインでは生ハムは紀元前、ローマ時代からあります。ローマ時代に通用していたコインにどんぐりとか豚(生ハムの原材料)を刻印したコインが通用していたという事実があります。

スペインはコロンブスがアメリカ大陸を発見した大航海時代に世界中の金を集めた国でもあるんですね。大航海ができた一つの要因に、私は生ハムが必ずあると思うんですね。生ハムは常温で保存できるんです。船の上で冷蔵庫もないところでも、そのままつるしていけば立派な食糧になります。ナイフ1本で割れます。火を使わなくても食べられます。スペインは栄養価の高い食糧を調達できたから、大航海時代に世界をまたにかけることができたと考えています。

日本で最高級の生ハムをつくる

仙北市が地方創生特区に指定されました。仙北市は田沢湖と角館と西木村が一緒になって10年たちました。そこで私が豚を放牧したいといろんな人に話していたら、その話を聞きつけて各大臣や内閣府の方たちが工房に視察に来ました。仙北市は6割を国有林が占めていて、その国有林を

活用して5月から豚の放牧を始めます。生ハムをつくるための豚をつくりたいと思います。そして“日本の生ハムってこうなんだよ”という最高級の生ハムをつくってみたい。(視察に来た国会議員の)小泉さんも「オリンピックまでにつくれないうか」といわれ、「3、4年あれば何とかできます」とお答えしたという経緯があります。そんなわけで放牧に向けていろいろ準備をしているところでもあります。

これからの夢

実は能代農業、今の西高と能代工業が合併するんですね。その跡地が40ヘクタールあるんですが、地方創生のためにそこを活用して農業だったり観光だったり、それを6次産業につなげて製品をつくったりとか、NPO法人を立ち上げてみんなでやっていこうということを計画しております。

若い人たちに私たちが持っている知識・知恵を伝えていってそれをもっとふくらまそうじゃないか、と還暦を過ぎて考えたわけです。今回能代のNPO法人に参加する、それから田沢湖で豚を飼う、飼うだけでなくみんなでブランドをつくろう、観光街があるので名物料理をつくろう、みんなで一緒にやっていこう、というのが私の一つの夢というか、そういうふうに考えています。

自然の中で放牧することによって、豚は元々持っている強さがあるので、健康な豚を育てようというのがヨーロッパでは主流になってきています。豚の放牧というのは私の一つの思いでもあるんですね。イベリコ・デ・ベジョータという最高級の豚は、生ハムにすると足1本で20万円します。両足だったら40万円しますよ。それくらい高価なものになるんです。そうすると養豚家たちも間に合うんですよ。

日本で徐々に自然の状況で健康で安心安全な豚をつくりながら、地方も創生していけばいいのかなというのが私の最後の夢です。どうぞ皆さんも能代のために一肌脱いで頑張ろうというお声をかけていただきたいと思います。

構成/須藤正喜(第43期)

※ 東京同窓会のホームページから総会・講演会・懇親会の写真の一部がご覧になれます。

<http://shoryokenji.web.fc2.com>

会 員 だ よ り

東京同窓会に初参加！

第45期 河田 昌俊

2015年10月3日、念願叶いやっと東京同窓会に参加することができました。毎年送っていただいている東京同窓会会報には目を通していましたし、会場であるアルカディア市ヶ谷は、年に数回ですが仕事で足を運んでいる場所です。しかも同じ3階富士の間ということで、正直わくわく感はありませんでした(ごめんなさい皆さん)。でも実際に参加してみると、変に緊張することもなく、ほんとうに楽しいひと時でした。

私が能代高校を卒業したのが1975年(昭和50年)3月ですので、あれから40年もの月日が経ったのかと思うと非常に感慨深いものがあります。なんといっても高2で同級だった菊池君が母校の校長を務めているんですから。

私自身は、能代高校を卒業後、横浜市にある関東学院大学へ進学し、卒業後はそのまま大学の事務職員として社会人生活をスタートさせました。公務員や会社勤めなどサラリーマンをしている私と同期の連中は、今年(2016年)還暦を迎えて、定年退職となる者が多いのです。私の場合は定年が65歳なので、健康と気力さえあれば、あと5年働くことができます。とはいえ、役職を降りてラインから外れることがわかっているだけに、どうやってモチベーションを維持するか、あるいは仕事へ向けるパワーを抑え気味にするのか、よく

考えていきたいと思っています。

1990年代、パソコン通信にどっぷりハマっていた自分でしたし、東京同窓会のホームページは昔からよく拝見していました。ここ数年はFacebookのおかげでコミュニケー



乾杯の音頭は女子の1期生だった
小山黎子さん(第24期)。

ションの幅がさらに広がったと感じています。もちろん能代高校の同窓生とも友だちになっていただいています。このコミュニケーションを大事にしていきたいと思っています。東京同窓会に参加して、何か昔のオフラインミーティング(オフミ)に参加した気分似た感覚がありました。

さて、東京同窓会に初参加した後、年の暮れまでの間に、二人の孫ができました。じいじになっても、何歳になっても、また参加させていただきたいと思っています。

蘇った能代高校という風

第48期 小嶋 寛

Facebookの友達検索のページにある「知り合いかも」のコーナーで、能代高校の同級生とつながる機会に恵まれた。「もしかして、能代高校の…さん?」「美術部の小嶋君?」

この日から、今まで動くことのなかった私の中の能代高校という歯車が回りだしたように思う。

「こてらんこ」での能代高校の48期同級生との



懇親会より、初参加者紹介の一場面。

赤坂スペイン料理と手作り生ハムの店

CERVECERIA GRANVIA

〒107-0052
東京都港区赤坂 6-4-15
シティマンション赤坂 101
Tel/Fax 03-6277-8621
mail kaneko@granvia.jp



秋田(田沢湖)生ハム工場 グランビア生ハム工房
〒014-1201
秋田県仙北市田沢湖生保内字下高野 71-149
Tel/Fax 0187-42-8356



年々進歩を見せる松陵クワイヤのゴスペル。

飲み会に参加し、久しぶりに能代高校の風を感じる事になった。上野での2次会の帰りに「能代高校っていい高校だったんだね。」と言ったのを今でも覚えている。居心地のいい時間だった。

それがきっかけで能代高校東京同窓会・懇親会に、会社の同僚であり能代高校の48期同窓生の藤田幹也と共に参加することとなった。

当日総会で聞いた金子先輩の講演「還暦を過ぎて、これからの夢」ではエネルギーを頂いた。

懇親会は、再会を喜ぶ人たち、初対面の挨拶を交わす人たち、和気藹々とした雰囲気。

私達を含む初参加の方々の紹介が行われ、壇上でご挨拶。有志のゴスペルによる「Oh Happy Day!」のソロパートは、何と同期の佐藤美香子さんが歌い上げ、ゴスペルでの「秋田音頭」で一気に会場が盛り上がった。

その後2次会、3次会と続き、記念すべき日が終わった。その日、新橋のホテルにたどり着いたのは何時だったのか定かでない。

東京同窓会に参加して、私の中で忘れかけていた「能代高校」という風、あの時代の感覚が蘇ってきた。能代高校での数々の経験が今の自分を作り上げていたことを実感した。



校歌斉唱の一場面。

能代高校東京同窓会は、いつも能代高校の風があり、秋田に行かずして能代を感じられるある意味タイムマシンのような場所なのかもしれない。

同窓会の幹事の方々、この同窓会を私に紹介してくれた北林蒔子さん、「こてらんこ」での同級会に誘ってくれた佐藤さんに、本当に感謝しています。東京同窓会に参加したことは、私にとって人生の大きなターニングポイントになったようです。また、参加したいと思います。

懐かしの学級日誌

第47期 野村 一哉

東京同窓会の会報に寄稿いただくため3年次担任の高橋一成先生にご連絡したところ、快くお引き受け下さいました。その上、当時の学級日誌を送っていただき感謝しております。

40年前の自分の文章が懐かしくも死ぬほど恥ずかしい複雑なこの感情を、是非他のクラスメイトにも味わっていただこう\(^o^)/

読み返してみると、クラスメイトがこの日誌にかけ
る情熱の並々ならぬ大きさに驚きます。



中身公開は10月1日の懇親会で!

受験生でありながら、A4ノート4ページ分、細かい字でびっしりと書かれている日がたくさんあります。校舎が高埒の地に引っ越して間もない、新たな伝統を作っていくぞとの気概が垣間見られる貴重な資料です。

能代郷土料理・居酒屋

酒楽 こてらんこ



藤岡洋子(能代北高卒)



〒110-0015
東京都台東区東上野1-19-2 第二鈴木ビル1F
☎ 03-6803-0239

・JR御徒町駅 北口より歩いて5分
・日比谷線 仲御徒町駅3番出口より歩いて3分

◆定休日 土日祝(土曜日は予約のみ営業)

能代で54期の同期会開催

第54期 遠藤 いぶき

成人式から30年となる節目の年、平成27年8月15日(土)夕刻、プラザ都に60人の同期生が集いました。

卒業からは31年経った夏。全員へのお知らせは難しい中、1年くらい前から東京同窓会掲示板やFacebook等インターネットを主とし、能代高校同窓会会報や北羽新報にもお世話になっての告知がされました。終盤は地元幹事のアナログ横つながりによって、参加者が増えたとか。

学年主任谷内成治先生、3B担任仙葉清志先生、3F担任井上忠純先生にもご出席、お言葉をいただきました。

懐かしい顔を見て歓声、すっかり大人になって誰かわからなかった顔も誰とわかって歓声。高校時代は話をしたことがなかった人も結構いるよね、と言いながらも、幹事さんの用意してくれた名前シールを胸に、そこそこで楽しく杯が交わされました。

能代高校出身ではありませんが、同い年で、能代からUstream番組「ぶひです!のしろ!」を配信しておられる九島かおりさんの能代言葉を交えた司会も心温かく、4番までの校歌をみんなで歌い万歳三唱で締めるまでの1次会はあっという間の2時間でした。

開会前に三羊堂の菊地さん(同期)が撮ってくださり閉会前に配られた集合写真(下)は、この夏の宝物です。

その後盛り上がった2次会、3次会で、次回は5年後という話が出たとのこと。斉藤伸一さん・渡邊知子さん他今回の幹事さんたちの心意気が次につながったと言えるでしょう。

最後になりましたが、1次会で秋田同窓会のご紹介と並んで、東京同窓会のご紹介をさせていた



だきました。昨年の会報も見てもらえるようご提供いただき、掲示板を使わせていただいたこと、合わせてお礼申し上げます。

ゴルフの能球会、活動再開

第50期 石井 鉄美

能球会は、東京同窓会の中でも歴史があり、50名以上の名簿記載者がありますが、近年の開催がなく、久しぶりに有志8名でのコンペ開催となりました。



新緑の4月16日、千葉県のエンゼルCCにて開催。当日は朝から東京湾アクアラインが大渋滞で危うくスタート時間に遅れそうになりながらも、無事2組がスタート。毎週ラウンドしている人から、5年ぶりのクラブを握る人まで、終始和気藹々とした雰囲気の中で、けが人もなく良いラウンドとなりました。

今回参加者は、29期3名、39期、48期、50期、56期夫妻の8名。上は喜寿目前から下は40代新妻まで、多彩な顔ぶれでの楽しいひと時となりました。成績はハンデに恵まれた幹事が優勝。全員に賞品が配られました。

今回は案内も行き届かなかったため少人数での開催となりましたが、これを機会に、懇親ラウンド、コンペを含めて継続的に開催していこうと考えております。参加希望の方は、幹事までご一報いただけるようお願いいたします。

五日会の活動について

第66期 清水 洋志

先般より会員の皆様にはご案内をさせていただいておりますが、今年度より「五日会」は以下の通り運営幹事の刷新を行いました。

□会 長 清水洋志(66期)

□副会長 片谷浩之(49期)、梶原禎子(53期)、高橋弘志(66期)

今年度も各季節に1回を目途に開催を予定しておりまして、年間計画は以下の通りです。

- ◎春(お花見) 4月15日(金)
 ◎夏(暑気払い) 7月16日(土)
 ◎秋(紅葉) 10月28日(金)
 ◎冬(新年会) 1月21日(土)

今年度から会員の皆様のご希望もあり一部土曜日開催も予定しております。また昼のイベント希望との声もいただいたことから、7月は昼・ボーリング大会→夜・懇親会(飲み会)という流れで開催し大いに盛り上がりました。昨年度は金子裕二先輩がオーナーを務める赤坂のグランビア(写真下)や御徒町のこてらんこなど能代にゆかりのお店でも開催、今後もお世話になりたいと考えています。



私自身秋田を離れ東京近郊で暮らすようになって今年で20年になります。離れてはいても故郷を思う気持ちは変わりません。むしろ離れているからこそ母校や故郷に対する愛着が強くなるのを感じています。高校の同窓生という共通点を持つ者同士が世代を越えて集まり他愛もないおしゃべりに興じる。またそれぞれの高校時代を思い出しては共通点を見つけたりジェネレーションギャップを感じたり(?)、さらには同窓生の近況を聞いては自分も頑張るぞ!とパワーをもらったり、とても楽しい会です。これからも気軽に参加できる楽しい会の運営を目指していきますので、どうぞ皆様「五日会」への参加をよろしくお願い致します。気軽に遊びに来てけれし!

東京同窓会の同好会

東京同窓会には、同窓生の親睦のために以下の同好会があります。これらの会に連絡を取りたい人、新たな同好会の提案や希望がある人はご連絡ください。事務局メールアドレス:

headoffice@toplinesfaccess.jp

◇棋聖会

活動内容: 囲碁・将棋の同好会です。年に3~4回程度、土日・午後の開催を予定しています。

代表者: 石川正順(第29期)

◇能高五日会

活動内容: 同窓生の青年部。若手同窓生たち(第45期より下)の親睦と交流を目的にした懇親会です。設立は2006年1月5日。入会資格は故郷と母校を愛していること。

代表者: 清水洋志(第66期)

◇樽子山会

活動内容: 樽子山を卒業した世代が各期を越えて参集し懇談します。元気な70歳代の楽しい寄集まり会にしたいと思います。今年3月には新宿山手七福神めぐりを実施。

代表者: 熊谷幸夫(第30期)

◇能球会

活動内容: 年2~3回、東京近郊のコースでゴルフを楽しみます。

代表者: 石井鉄美(第50期)

◇能高釣クラブ

活動内容: 自然を満喫しながら溪流釣を楽しみ、昼はバーベキュー、夕方は温泉で疲れを癒します。

代表者: 小河範也(第41期)

◇東京探訪の会

活動内容: 年2回(予定)、日常あまり触れることのない「東京」を訪ね、約2時間のコースを散策します。2015年は、お茶の水、神田明神と二つの聖堂などを探訪しました。東京同窓会ブログに報告を掲載。

代表者: 吉田真由美(第46期)

◇能高バスケの会

活動内容: 能代カップやウインターカップ、日本リーグやbjリーグ観戦、本校バスケット部やOB会との交流などによる情報交換をしています。

東京同窓会ホームページに報告を掲載。

代表者: 片谷浩之(第49期)

湯島で同窓生に会える店



あぐ・季節料理
上野 きくち

通算43期(新制25期) 菊池 忠夫 白神山地(藤里町)出身



千代田線湯島駅6番出口
徒歩1分

(大手町から北千住へ向かって最後方出口)

東京都台東区上野1-12-2
亀田ビル 1F ☎110-0005

ご予約をおすすめします

03-3839-3382

